

7月は、社会を明るくする運動、強化月間

7月5日、犯罪や非行を防止し、立ち直りを地域で支えようと「第64回社会を明るくする運動」と「第8回子ども未来を創る推進大会」を開催しました。同大会で講演をした藤岡耕子さん、7年間、電話相談を行ってきたと感じた「子どもたちに伝えたいこと」「大人たちが担う役割」を話してもらいました。



ハートライン
代表 藤岡 耕子さん
山鹿市出身、3児の母
中学校英語講師を経て、平成19年から子どもからの相談電話を行うボランティア団体を設立し、子どもや保護者からの相談を受けている。

じっくり寄り添って話を聞いて

「今の子どもたちはこんなにも大変な環境で生きているんだ」と感じたのは、私の子どもが学校生活の中で辛い経験をしてきたことがきっかけでした。何か力になりたいと思いい、相談を受けるようになりました。

時間をかけて相談することは、とても大事なことだと思います。心は少しずつ開いていきます。子どもたちは、自分でも理解していなかったことが分かるとスッキリします。ていねいに聞くことで信頼関係が生まれます。そうすると子どもはいつか本当のことを話してくれます。じっくり寄り添って話をすることで、お互いの気持ちの方が合い合えるようになると思います。

「ダメ」では相談できなくなる

LINE（ライン）や

facebook（フェイスブック）などのSNS（ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス）を始め、コミュニケーション方法は年々進化しています。

子どもたちから「SNSで出会った人と結婚したい」「SNSで住所や名前などを公開してしまっただ」などの相談を受けます。親がSNSの危険性に警鐘を鳴らしたくても、その技術の進歩についていけないと、それもできなくなります。一番は何でも相談できる環境を作ることです。頭ごなしに駄目というのではなく「面白そうだね。でも何かあったら相談してね」などの声かけをすることで、本当に困ったときに子どもはSOSを出してくれます。

「情」を伝えることー親の役割

いじめにあった子どもは、その古里を嫌う気持ちが生まれます。「熊本に、九州に帰りたくない」と思ってしまうのです。それは地

域にとつては大きなダメージです。地域のみならず、大きな問題として考えてほしいと思います。

以前、親の相談を受けたことがあったのですが、親にも悪いところがあったので、子どもに謝ってほしいと頼みました。「言っても何も変わりません」という母親を何とか説得し、謝ってもらったのですが、子どもは「分かってくれてありがとう」と親に抱きついてきたそうです。それからはいろんなことを話し合う関係になったそうです。

伝えたいことは、伝えようと思わなければ伝わりません。たとえ忙しくても、5分だけでもいいので話を聞いてあげたり、抱きしめたり「命をかけて守るよ」といった言葉をかけてあげたりしてください。子どもたちに「情」を伝えていくことが大人たちにはできることではないかと思っています。

「第64回社会を明るくする運動」と「第8回子どもの未来を創る推進大会」を開催



「社会を明るくする運動」と「子どもの未来を創る推進大会」が7月5日、町文化ホールで開催されました。大会では、ビデオ「心のリレー」の上映、大津町更生保護女性会（※）の活動報告などが行われました。活動報告では、大津幼稚園での親子料理教室、学校訪問、会員研修、更生保護施設へ夕食の提供といった活動内容と、利用者からの感謝の手紙が紹介されました。来場者からは、「更生保護女性会の活動を知ることができた」「手作りの料理は心に伝わってくるものだと思った」との声が聞かれました。
※青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生に協力することなどを目的として活動している団体です。